音楽の深層を知り、音楽家の本音を聞く

Monthly
January
2019
No.1
1

音楽の友

ONGAKU NO TOMO

特集Ⅰ

怪奇と幻想のクラシック

ベルリオーズ没後150年／《幻想交響曲》日本初演90周年記念

特集Ⅱ

シェフが語るシリーズ公演

～オーケストラの定期会員になろう

Interview

テオドール・クルレンツィス

アレクセイ・ゲラシメス

細川俊夫

Report

グスターボ・ドゥダメル

内田光子

エフゲニー・キーシン

別冊付録

国内の演奏会&チケット情報満載！

コンサート・ガイド

2019年1月1日発行（毎月1回1日発行） 第77巻1号 1936年2月22日 第3種郵便物認可

Teodor Currentzis

感を放つ指揮者だ ©Nina Vorobyova

Interview

初来日直前、マドリッドでインタヴュー

テオドール・クルレンツィス、日本での「ミッション」を語る

取材・文＝中 東生
Text=Shinobu Naka

西洋音楽は西洋で生まれただけで、
西洋人の演奏を真似る必要はないのです

いよいよ2月、鬼才クルレンツィスが手兵ムジカエテルナを率いて初来日する。いま、世界の音楽シーンで常に話題を振りまいている指揮者、それがクルレンツィスだ。『音楽の友』では、これまでクルレンツィスの独占インタヴューを過去に2度、掲載したが、そこで彼が強調していたのが演奏のことを置き換えた「ミッション」という言葉だ。さて、日本ではどのような「ミッション」を行うのであろうか。

3カ月かけて叶ったインタヴュー

今年8月のザルツブルク音楽祭でのベートーヴェン交響曲ツィクルスからずっと追いかけていたクルレンツィスに、ムジカエテルナとマーラー「交響曲第3番」のヨーロッパ・ツアーでマドリッドに入った翌日、ようやくインタヴューが叶った。

●

日本古来の伝統に合わせた「周波数」

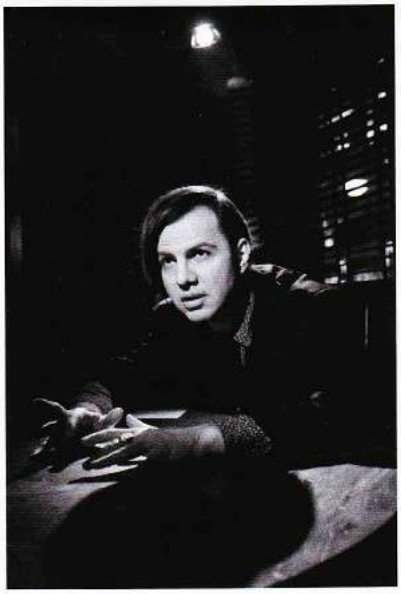
――南西ドイツ放送交響楽団（SWR）の首席指揮者就任コンサートでは、素晴らしいマーラー「第3番」で、やっと貴方の「ミッション」が心底理解できました。人類全体を包み込む大きな愛に包まれ、幸せの涙があふれて来ましたが、日本の聴衆にも、こんな素晴らしい体験をさせてくれるのですか。

「それぞれの国に違う文化があり、僕は本当に日本文化のファンなので、また違った質の、違った周波数のものになると思います。僕たちギリシア人は、周りの世界に合わせた周波数を送れる特技を持っています(!)。世界は視点によって変わるもので、異なる複数のアプローチができるのです。そして文化は『その世界を見る可能性』を拡げてくれます。別の周波数を通すと、ずっとそこにあったのに見えなかったものが見えてくるのです。

あの演奏はドイツ人の周波数に合わせたもので、日本では、正確で柔軟で繊細さの中に情熱を秘めている、日本古来の伝統に合わせた周波数のものになると思います。日本人が大好きなチャイコフスキーを選びましたし……。チャイコフスキーは日本の音楽だってご存知ですか?(笑)　彼は日本の国民的作曲家です。日本人はロシア人よりチャイコフスキーを深く理解できていますから。反対に、例えば武満徹はロシア人のほうが理解できているとしたら、ロシアの作曲家と言えます。『自分は典型的な何人』と括るのは安っぽく、本当に理解できることとは違うのです。国籍で作曲家との関係が決まるのではなく、作曲家と複合的な人間関係が結べるか、なのです。音楽に国境はないのです。

まあ、それだけではなく、ムジカエテルナはチャイコフスキーの音楽を世界でいちばん良く演奏できると思っているからです。その上で、日本人はチャイコフスキーに情熱を傾け、彼の音楽を本当に良く理解してくれるので、新しい解釈を提示したいのです。僕たちはみなさんが聴き慣れたような演奏はしません。ある種の再発見をしてもらいたいのです」

Teodor Currentzis speaks about his "Mission" in Japan.



クルレンツィスの夢は「家族」を持つことなのだという ©Vladimir Yarotsky

「第6番《悲愴》」は特別な曲

――「交響曲第6番《悲愴》」のCDが、2017年度、日本で「レコード・アカデミー賞」の大賞に選ばれたのをご存知ですか。

「はい。この曲はこのCDの録音セッション以来、指揮していません。どの曲も、慣れてしまうのが怖いので、あまり頻繁に指揮しないようにしていますが、この『第6番』は特別で、指揮した後、あまりにも打撃を受けるので、頻繁に演奏できないのです。終演後は話すこともできず（うなだれて見せ）、こんな感じです。この曲を10回続けて演奏するようなツアーを組むのは、僕には不可能です。『第4番』もドラマティックですが、『第6番』のようにヘヴィなものは他に類を見ません。下へ、下へ、と落ちていくのです。このCDは僕の『マニフェスト』なので、日本での生演奏もこの路線になると思います」

――ヴァイオリン協奏曲のソリスト、パトリツィア・コパチンスカヤとのCDも高く評価されていますが、彼女との出会いはどんなふうでしたか。

「（にっこり笑って）ん～、比較的最近の出会いですが、短期間ですぐに仲良くなりました。チューリヒ歌劇場でヴェルディ《マクベス》を振っていた時（2016年）、バルコニー席に彼女が観に来ていて、僕に目で合図したのです。それが初対面でしたが、すぐに意気投合し、一緒に録音しようということになりました。彼女は自分の体や自分の持っているものを好きになれない世代の一人で、何が起こるかわからないところがあります。とても特殊で、ある意味、戦士のような女性です。『国境（ボーダー）なき医師団』というのがありますが、パトリツィアは『ボーダーなき戦士』（笑）です。どこにでも行って革命を起こしてしまいます。でも、彼女は妹みたいに大切な友人なので、あまり客観的には見られませんが」

――個人的には「幻想曲《フランチェスカ・ダ・リミニ》」が、貴方にぴったりだ

チケットの争奪戦となった2018年ザルツブルク音楽祭での「ベートーヴェン・ツィクルス」から。このあと、ロンドンのプロムスにも登場した
©Salzburger Festspiele / Marco Borrelli

と思うのですが……。

「僕の大好きな曲の一つです。サンクトペテルブルクの音楽院、特にムーシン・クラスでは重要なレパートリーだったので、何度も振りました。最近は距離を置くように努めていますが、これはまさに『僕のレパートリー』です」

叶っていない夢は「家族」

――この曲の元となる『神曲』の「天国と地獄」のような存在を信じますか。

「100パーセント信じていますが、ちょっと違った解釈です。僕にとって天国も涅槃も地獄も、みな同じ場所なのです」

――どういう意味ですか。

「例えばこの部屋も、天国であり、地獄でもあり得るわけで、決めるのはそれぞれの人の内面です。無垢な心で悪い行いをしなければその場所は天国になり、天使も見えます。でも邪な心でいたら、地獄となり苦しむのです。自分で自分を傷つけるのです」

――それじゃあ、貴方のミッション（＝演奏）を通して「より善い人」にしてもらわなければ、ね（笑）。そのミッションも世界的に展開されている今、まだ叶っていない夢は何ですか。

「家族です！それも、どこにでもいるような家族ではなく、芸術的で、愛情と共に理解し合える家族です」

――貴方自身の家族みたいですか。

「ええ、母は音楽教師ですが、本当は警察官の父の方がより熱狂的な音楽ファンでした。父は、本当はピアニストになりたかったのです。レコードもよく聴いているのは父の方でした。残念ながら、もう他界してしまいましたが……。母は時々、ザルツブルクなどに僕の公演を聴きに来てくれます」

――そんな家族を一緒に作ってくれそうな候補者の女性は決まっていますか。

「いえ、まだです。そんな簡単に決められませんよ、オーディションするわけにもいかないし（笑）。日本の女性は、そういう家族を作るのに適役だと思います。例えば、これを動かす時（焼き物のコースターを取って）、普通はこうやって置くけれど、日本人女性はそーっと音がしないように置く。そういう美的センスの高さ、高度な文化を尊敬します。中は熱いものを秘めているのに、外はデリケート……日本人のガールフレンドを持ったことがないのであくまでも想像ですが……（笑）。まあ、一番大切なのは愛で、心と心が共鳴して、虹が出るような関係が目標です」

演奏には新しい息吹が必要

――以前「あまり人に言っていない密かな夢だけど、日本の音楽界を、西洋のコピーではない方向に持って行く手助けができたら……」と言ってくださいましたが、訪日を前に具体的なプランはありますか。

「日本でのインパクトをみて、自分がどう感じるか、みてみようと思います。でも、これからも頻繁に日本へ行きたいのは確かです。西欧ではみな、同じような演奏をするようになってしまいましたが、それはもう過去の『死んだ』もので、新しい息吹が必要なのです。西洋音楽は西洋で生まれただけで、今は世界の音楽なので、西洋人の演奏を真似る必要はないのです。日本人の音楽家は素晴らしく、日本では現代曲での可能性も感じられます。新しいスタイルが必要なのです。音楽は（既成のものを）演じるのではなく、行動する＝感じるものなので、作曲家が言おうとしたすべてのことを、新しく『感じる』ことが大切なのです。演奏家が感じて初めて、聴衆も感じられるのです。あなたが贈り物をする時、心を込めていなければ、相手が『感じる』ことを期待できないのと同じです。僕が尊敬する文化を持っている日本に飛び込んで、「贈り物」ができるのを楽しみにしています」

■公演情報

テオドール・クルレンツィス指揮ムジカエテルナ初来日ツアー

●売切：2月10日15時〈会場〉Bunkamuraオーチャードホール〈曲目〉チャイコフスキー「ヴァイオリン協奏曲」（パトリツィア・コパチンスカヤvn）、同「交響曲第6番《悲愴》」〈問合せ〉Bunkamura03-3477-3244

●売切：2月11日15時〈会場〉すみだトリフォニーホール〈曲目〉チャイコフスキー「ヴァイオリン協奏曲」（パトリツィア・コパチンスカヤvn）、同「交響曲第4番」〈問合せ〉トリフォニーホールチケットセンター03-5608-1212

●2月13日19時〈会場〉サントリーホール〈曲目〉チャイコフスキー「組曲第3番」、同「幻想曲《フランチェスカ・ダ・リミニ》」、同「幻想序曲《ロメオとジュリエット》」〈問合せ〉カジモト・イープラス0570-06-9960

●2月14日時間未定〈会場〉フェスティバルホール〈曲目〉チャイコフスキー「ヴァイオリン協奏曲」（パトリツィア・コパチンスカヤvn）、同「交響曲第6番《悲愴》」〈問合せ〉キョードーインフォメーション0570-200-888

■CD

チャイコフスキー「交響曲第6番《悲愴》」
〈演奏〉テオドール・クルレンツィス指揮ムジカエテルナ [S-SICC30426]

チャイコフスキー「ヴァイオリン協奏曲」＆ストラヴィンスキー《結婚》
〈演奏〉テオドール・クルレンツィス（指揮）、パトリシア・コパチンスカヤ（vn）、ムジカエテルナ、他 [S- SICC30254]